

II 誰にでも使いやすい 建築物の整備指針

この章では、多数の人が利用する建築物を中心に、整備のあり方について、ハード面、ソフト面、それを実現するための取組手順の3つの視点から述べています。

1 ハード面の整備について

誰にとっても公平に、安全に、安心して、そして快適に、建築物を利用できるように整備するための考え方を以下に示します。

- (1) 公平に利用できること
- (2) わかりやすいこと
- (3) 移動しやすいこと
- (4) 利用方法を選択できること
- (5) 十分な幅・広さがあること
- (6) 安全・安心して利用できること
- (7) 情報が伝わりやすいこと
- (8) 良いデザインであること
- (9) 使い続けられること
- (10) 費用が妥当であること

ユニバーサルデザインの建築物を整備するにあたっては、年齢、国籍、性別、個人の能力を問わず、すべての利用者が建築物を、公平・平等に利用でき、使いやすいことが大切です。そのためには、建築物の位置や内部空間がわかりやすく、利用や移動に際して負担が少なく、安心して快適に利用できるように配慮します。

建築物だけでなく、道路や歩道など、周辺とのつながりにも十分配慮してあることが重要です。また、このように整備された建築物は、利用者や利用方法の変化にも対応しやすく、大きな改修や建替えの必要が少なくなり、長い間使い続けることができます。

(1) 公平に利用できること

年齢、国籍、性別、個人の能力を問わず、
すべての人が公平・平等に利用できるようにします。

特定の利用者を対象に、特別な整備をしたり、特別な対応をしなければ使えない建築物ではなく、すべての人ができる限り同じように移動でき、利用できるようにします。

そのためには、幅広い年齢層、様々な国籍、男性と女性、多様な個人の能力などに配慮して、すべての人が公平・平等に利用できるように建築物を整備します。



[公共施設の出入口]

自動ドアは、誰にとっても負担
なく、公平に利用できます。

(2) わかりやすいこと

建築物の位置や内部空間をわかりやすくします。

II

① 見つけやすいこと

◇ 周辺や敷地内から、目的の建築物や出入口を見つけやすくします。

② 迷わないための配慮がされていること

◇ 建築物内で迷わないために、自分の位置と目的の場所との関係がわかりやすい配置や空間構成とします。

◇ トイレなどの、複数の階に設置される共通の施設は、各階同じような場所に配置したり、よく使われる部屋は主要な通路やホールに沿って配置します。

玄関前に十分な空間を確保したために、遠くからでも建築物と玄関が見え、どこから入ればよいのか、わかりやすくなっています。
また、歩道と敷地の連続性にも配慮し、誰にでも入りやすい施設となっています。



[地域のコミュニティ施設]

(3) 移動しやすいこと

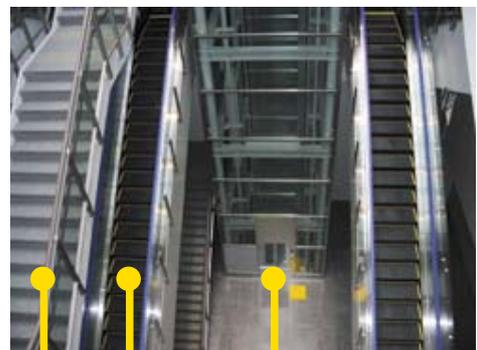
負担が少なく、誰もが同じ経路で安全に移動できるようにします。

①安全で負担が少ない経路を確保すること

- ◇道路などの外部空間から、玄関に至るまで高低差ができないように、建築物の高さを設定します。通路にはつまずきや転倒の危険のあるような段差を設けないようにします。
- ◇上下階移動のある場合は、エレベーターなどを主要な動線からわかりやすい場所に設置し、利用者の状況に応じて移動手段を選択できるようにします。
- ◇水平移動の場合は、移動距離を少なくする、滑りにくく歩行しやすい床材を選定する、手すりを設置するなどにより、安全で負担が少なくなるような配慮をします。
- ◇利用者によって特別な経路を設定せず、誰もが同じ経路、もしくは隣接した経路で移動できるようにします。
- ◇身体能力に応じて、移動の途中でも休憩ができるように、ベンチなどを設置することも大切です。

[空港内のホール]

エレベーター、エスカレーター(上り、下り)、階段が隣接して設置され移動手段が選択できるように整備されています。エスカレーターを設置する場合、荷物を持っている人や歩行が困難な人などにとっては、上りだけでなく、下りも大切です。



階段 エスカレーター エレベーター

[空港内の通路]

水平移動の負担を軽減するために動く歩道を設置しています。乗降場所の照明を明るくして、乗降位置をわかりやすくしています。



②建築物と周辺を連続させること

◇建築物の敷地内だけでなく、周辺の道路や歩道、広場とも段差のない連続したつながりに十分配慮し、移動や出入りをしやすくすることが重要です。

③非常時に、誰もが安全に避難できること

◇高齢者、視覚障害者、聴覚障害者、車いす使用者、歩行が困難な人などの多様な利用者が、安全に避難できるように、幅が広く段差のない移動経路や、一時退避できるスペースの確保などが重要です。さらに、非常時の避難にあたっては、管理者などによる人的な対応や利用者相互の協力も大切です。

◇避難経路は、できる限り通常利用している経路にします。

(4) 利用方法を選択できること

個人の能力、状況に応じて利用方法を選択できるようにします。

- ◇移動のルートや手段、施設や設備の利用、情報の入手などは、利用者の様々な個人の能力や、重い荷物を持っている時や乳幼児連れの時などの多様な状況に応じて、自らの意思で、利用方法を選択できるようにします。
- ◇トイレにおいて、高齢者、車いす使用者、オストメイト*⁸、幼児連れの親子、介助の必要な方などが状況に応じて便器などを選択できるようにします。
- ◇身体機能の違いにあわせて、手すりの位置などが選択できるようにします。
- ◇劇場、観覧場などの席も利用者の状況に応じて、位置を選択できるように配慮することも大切です。



[ホテルのトイレ]

左:車いすで使用しやすい広いスペース、左右に手すりのついた便器、オストメイト*⁸対応の汚物流しなどを、設置しています。

右:介助が必要な方などのために、折りたたみ式の簡易大型ベッドを設置しています。



[公共施設のトイレ]



[公共施設のトイレ]

左:手すりのついた小便器、オムツ替えのできるベビーベッドとともに、昇降式で高さを変更できるオストメイト*⁸対応の汚物流し台を設置しています。

[空港内の水飲み]

2種類の高さの水飲みを設け、車いす使用者や子供などが、使いやすい高さを選択できます。水を出すボタンも大きくなっています。



(5) 十分な幅・広さがあること

誰もが無理のない姿勢で、
使うのに支障のない十分な幅、広さとします。

①十分な幅の通路や出入口

◇車いすの使用なども考慮し、出入口の有効幅や通路の幅、回転するのに支障のない広さを確保します。このような通路は非常時の避難の際にも、より安全となります。



[福祉施設の廊下]

廊下の幅を広くとり、両側には連続した手すりを設置して、利用しやすくなっています。



[地域の公民館]

ゆとりのある図書室の通路幅員。ここではベビーカーを押していても、支障なく利用できます。

②十分な広さのスペース

- ◇出入口前の車寄せや駐車場などは、誰にでも動きやすく、車いすの回転や、多様な利用方法に配慮した広さを確保するとともに、雨にぬれずに使えるようにします。
- ◇ホールや各部屋なども、車いすの回転や、多様な利用方法を配慮した広さを確保します。
- ◇トイレは多様な利用者の状態や動作を理解し、誰もが無理のない姿勢で安心して利用できるように、適切な設備を設置するとともに、広さを確保します。1ヶ所のトイレに多くの設備を詰め込みすぎて、使いにくくならないように検討することも大切です。

このエントランスホールは、通路も広く、休憩ベンチや低いカウンターなどの設置により、利用しやすくなっています。また、1、2階が吹き抜けとなっており、両方の階が見通せるために、建築物の中の部屋の位置などがわかりやすくなっています。



[地域の福祉センター]

(6) 安全・安心に利用できること

建築物が安全であり、設備などの使い方を間違えても事故につながらないようにします。

II

- ◇建築物や家具が耐震性や防火性にすぐれ、非常時にも安全に避難できるように整備されていれば、高齢者や障害のある人たちも安心して利用できます。
- ◇ホール、階段、廊下などを安心して利用するには、適度な明るさが必要です。
- ◇ドア、家具は、誰にとっても無理のない姿勢で、大きな力を使うことなく、操作が容易なものを採用します。
- ◇設備の機器類は、使い方が簡単ですぐわかり、使用方法や操作を間違えたとしても、事故につながらず、安心して安全に利用できるものを採用します。
- ◇自動ドアやエレベーターの扉の開閉時間は、通過や乗り降りに十分な時間が必要な人がいることにも配慮します。エスカレーターや動く歩道なども同様に、乗降に不安のある人もいることに配慮した運転速度に設定します。
- ◇エレベーターの透明性の確保は、非常時のみならず、防犯にも有効です。
- ◇自動回転ドアは、高齢者、障害のある人、幼児などには危険を伴うことがあり、設置にあたっては、安全に十分配慮する必要があります。



[空港内のエレベーター]

ガラス窓が設けられたエレベーター。かごの中を見通せて内外の様子を確認できます。



[福祉施設の引き戸]

大きな引き手がつき開閉しやすい出入口の引き戸。また、ガラス窓で内外の様子を確認できます。

(7) 情報が伝わりやすいこと

わかりやすい施設案内、避難のための的確な案内板や、誘導用ブロックなどの誘導設備を設置します。

①わかりやすい施設案内

- ◇案内板やサインは、できるだけ見つけやすい位置に設置し、周辺の明るさや光の反射により、見えにくくならないように十分配慮します。また、遠くからでも理解できるように、大きい文字や図で標記し、案内板の文字や図が、はっきり区別できる配色にします。
- ◇外国人や小さな子供などにも理解しやすいように、平易な表現や図・絵文字（ピクトグラム）の活用にも配慮します。
- ◇建築物の出入口の案内や施設情報の提供などは、できるだけ文字、音声など、複数の方法で行います。
- ◇視覚障害者の誘導案内のために、誘導用ブロック（線状ブロック、点状ブロック）を適切に設置します。



[ホテルのロビー]

受付カウンターの脇に設置されている大型のディスプレイ。音声付の「館内情報」と「ニュース」、「天気予報」の文字放送が提供されています。



[空港のトイレ]

図・絵文字（ピクトグラム）と英語・中国語・ハングル語を併記し、多様な利用者に配慮した案内サイン。また、濃い色の地に、白い文字や図の配色をして読みやすくなっています。

②感覚に訴えるデザインの工夫

- ◇視覚情報ばかりでなく、聴覚や触覚なども活用して空間を把握し、行き先を確認したり、危険を回避している利用者もいます。「光」「色」「素材」さらに「音」を適切に使用して感覚に訴え、わかりやすく「誘導」や「危険回避」ができるようにします。

③避難のための複数の情報提供

◇非常時の避難のための誘導についても、文字、音声、見てわかりやすいサインなど、複数の方法による情報提供を行います。特にトイレやエレベーターなどの閉鎖された空間では、わかりやすい緊急情報の提供が重要です。

[公共施設の避難誘導]

避難誘導の表示(左のピクトグラム)と、非常時に点滅するフラッシュランプ(右下)と、非常放送用のスピーカー(右上)により、複数の方法で緊急情報を提供しています。



(8) 良いデザインであること

さりげなく、受け入れやすく、
美しいデザインとします。

◇材質や形などが特別な仕様のデザインではなく、さりげなく誰にでも受け入れやすく、美しいデザインとします。また、周辺環境とも調和した質の高いデザインとします。

(9) 使い続けられること

いつまでも利用方法の変化に対応して、
使い続けられるようにします。

◇社会環境の変化に伴う新しい機能への対応や、利用者のニーズの変化に対応して改修が必要になったとき、容易に工事ができるように配慮しておきます。

◇あらかじめ壁が移動できる建築の構造や、配管・配線などに自由度のある床・壁・天井の構造としておくと、わずかな材料の使用で、費用を節約した変更工事が可能となり、長期間使い続けることができます。

(10) 費用が妥当であること

一般的な材料などの使用により、
整備にかかる費用を妥当なものにします。

- ◇特別な仕様やデザインでなく、できるだけ一般的な材料や設備を使用します。
それにより費用が妥当なものになります。ユニバーサルデザインが一般的なものになれば、洗浄便座や自動水栓のように多くの人に使われ、製品として広く流通し、コストの低減へとつながります。
- ◇より多くの人にとって使いやすく、長く使い続けられるように、柔軟な計画をすることにより、将来の特別な仕様の変更が少なくなり、維持や改修にかかるコストが下がるため、トータルコストを低くおさえることにもつながります。



[公共施設の自動水栓]

自動水栓は手をかざすだけで使用できます。これらの製品は既に一般的な製品として流通しています。